

就任の「あいさつ」

5月23日付けで石橋輝一神崎町長が就任されました。



神崎町長
石橋 輝一

このたびの神崎町長選挙において、町民皆様のご支援を頂き、3期目の町政運営を担うことになりました。その責任の重大さに身の引き締まる思いであります。

先の2期8年間、町民皆様には町行政に深いご理解とご協力を賜り、心から感謝お礼を申し上げます。

「最小の経費で最大の効果」をモットーに、職員の意識改革、行財政改革を柱として、メリハリのある町政運営を実践し、町財政も健全化の方向へ一歩一歩前進・改善されてまいりました。

少子高齢化は、国はもとより当町においても深刻な問題であるため、対策には積極的に取り組みました。他市町村に先駆けて中学生までの医療費全額無料化、今年4月からは保育園児の給食費相当額の全額補助、小中学生の給食費2分の1補助などを実施し、保護者の費用負担を軽減するための町独自の助成制度を立ち上げ、子育てしやすい

環境づくりを行い、町の少子化対策の目玉として取り組んできたところです。

また、道路等のインフラ整備は、地域活性化の導火線ともなり重要です。

北総地域の発展、地域生活の至便性に不可欠な成田神崎線の整備が30有余年の時を超えて具体化し、県・成田市と連携のもとようやく着手するに至りました。

千葉県北総エリアのランドマークとして整備を進めている圏央道神崎インターに隣接する仮称「こうざき道の駅」建設は、当町の未来にとって活性化の拠点となるものと確信し、継続して関係各所と協議し進めているところです。

昨年の東日本大震災で本町も甚大な被害を被りました。被災された町民の平穏な日常生活の回復を第一にと、いち早く復旧工事に全力を挙げて取り組み、神宿浄水場の移転復旧工事のみを残し、ほぼ原状回復を成すこととなりました。被災された箇所、査定外となったところにおいても、今後調査を実施して計画的復旧に取り組んでまいります。

私はこのたびの就任にあたり、「夢・希望・活力ある輝く町づくり」をテーマに、こども達、高齢者が住みやすい

町づくりの建設に取り組む決意であります。その一歩について申し上げます。

子育てしやすい町・高齢者が安心して心豊かに過ごせる町づくりの推進

近年の少子化問題は減少に歯止めがかけられない状況であり、一部では国存亡の危機とも言われております。また、高齢者対策にあつては本町も高齢者比率が今後さら上がる状況であります。重要課題と位置付け町独自の「子育て支援策や高齢者に対する支援策」を講じてまいります。

町活性化に向け農業振興支援、仮称「こうざき道の駅」事業の推進

本町は蔵祭り等の開催により、発酵の里こうざきとして知名度も高まってきております。さらに「小さな町でもキラリ輝く」町づくりを進めてまいります。特に、農業が基幹の町として農事組合法人や営農組合への支援、地元資源活用による新商品開発への支援、発酵の里にちなむブランド化等に支援策を講じてまいります。そして、道の駅についても「神崎らしさ」を憲直に追及し、農業、商業、観光が一体化した魅力ある拠点化を目指して進めたいと考えています。

震災復旧とインフラ整備の推進

利根川沿線の液状化被害は、住宅地や農地・道水路を始め神宿浄水場の崩壊と合わせ、町予算にも近い約20億円もの被害が発生したところです。生活

の安定を取り戻すことが第一と復旧に取り組みましたが、最大規模の神宿浄水場移転復旧については、本年度より3力年計画で事業を進めてまいります。より安全給水体制に向け、周辺市町とも水道事業の連携を協議し、震災時の相互供給体制づくりにも取り組んでまいります。

道路整備については、地域の活性化と緊急時の対策として大変重要であります。幹線でありながら30数年の懸案事項であった町道成田神崎線・県道郡停車場大須賀線（成田消防下総分署から今地先国道356号バイパス間）の早期整備推進に取り組んでまいります。

最後になりますが、神崎町民が安心して暮らせることは勿論のこと、子育てしやすい町・お年寄りや過ごしやすい町と自慢できる魅力ある町づくりに向けて、町民皆様とともに考え取り組んでまいり所存であります。また、財政の健全運営は恒久のテーマです。引き続き厳しい状況にありますので、職員一丸となり経費の削減に取り組む、最小の経費で最大の効果が出るよう努力してまいります。

今後とも皆様には、ご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。就任のごあいさつとさせていただきます。